

住まいの飾り職人“アトムリビントック株式会社”の広報誌 [アトムニュース]

ATOM NEWS

2019 SPRING

203





KANAGU

kanagu-store.com

- 3 アテナの道具箱 「都美人酒造」能登杜氏 山内 邦弘さん
- 6 石の神さま仏さま 許す能力を鍛えよう
- 7 住まいの中の機構としくみ 木ねじとボルト&ナット
- 9 CSタワー通信 個展「COPPER SCAPE.」と「木香家展」を行いました
こうさいたい 紅葉苔
- 10 Vegetable Atelier
- 11 古今東西たてものがたり 栃木県宇都宮市 カトリック松が峰教会
- 15 What is ATOM? アトムリビンテックって、どんな会社? [9]
- 17 ごとうゆきの トーキョー下町探検 根岸・鶯谷編
- 18 オフタイムの過ごし方

今号の表紙

イラスト 歌麿美人画



江戸時代に活躍した浮世絵師、喜多川歌麿。葛飾北斎と並び称され、繊細で優雅な描線の特徴とする美人画の大家である。江戸時代、日本建築における金物には、構造用の補強金物、装飾用飾金具、建具の支持金具や戸締り金具などがある。今号の表紙は、引き戸を開閉する際に、不意にハンドルにもたれても、木製ハンドルが床に接地するしくみの「フリクションハンドル」。扉の金具紹介であるがご容赦を。



瀬谷 昌男 [Masao Seya]

東京都渋谷区原宿生まれ。浮世絵風のユニークで癒やし系の作品を生み出しているイラストレーター

読者プレゼント
Present

● time and space [colorfultimes]

昨年12月にCSタワーにて個展を開催し、今号の「CSタワー通信」にも登場する、モメンタムファクトリー・Oriiのメタル・クロックです。銅器製造のまち・富山県高岡市に伝わる技術と、それを受け継いだ代表・折井宏司さんによるオリジナルの技術を用いて発色させた、薄い真鍮板。こちらの色合いは「オリーブブルー」と呼ばれています。同じ商品であっても1枚ずつ色や紋様の出方が異なります。日本に古から伝わる美意識や、物事が移り変わっていく時の流れを感じられる、Oriiの時計。静かで穏やかな輝きを、皆さまの生活の彩りに加えてみませんか？

【サイズ】H300×W300×D30mm 【材質】真鍮 【重量】750g
【販売価格】18,000円＋消費税 【色】斑紋ガス青銅色

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で3名様にプレゼントいたします。

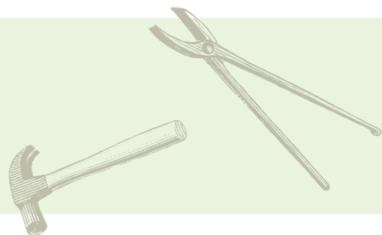
締め切り 2019年4月30日(火)

● 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます

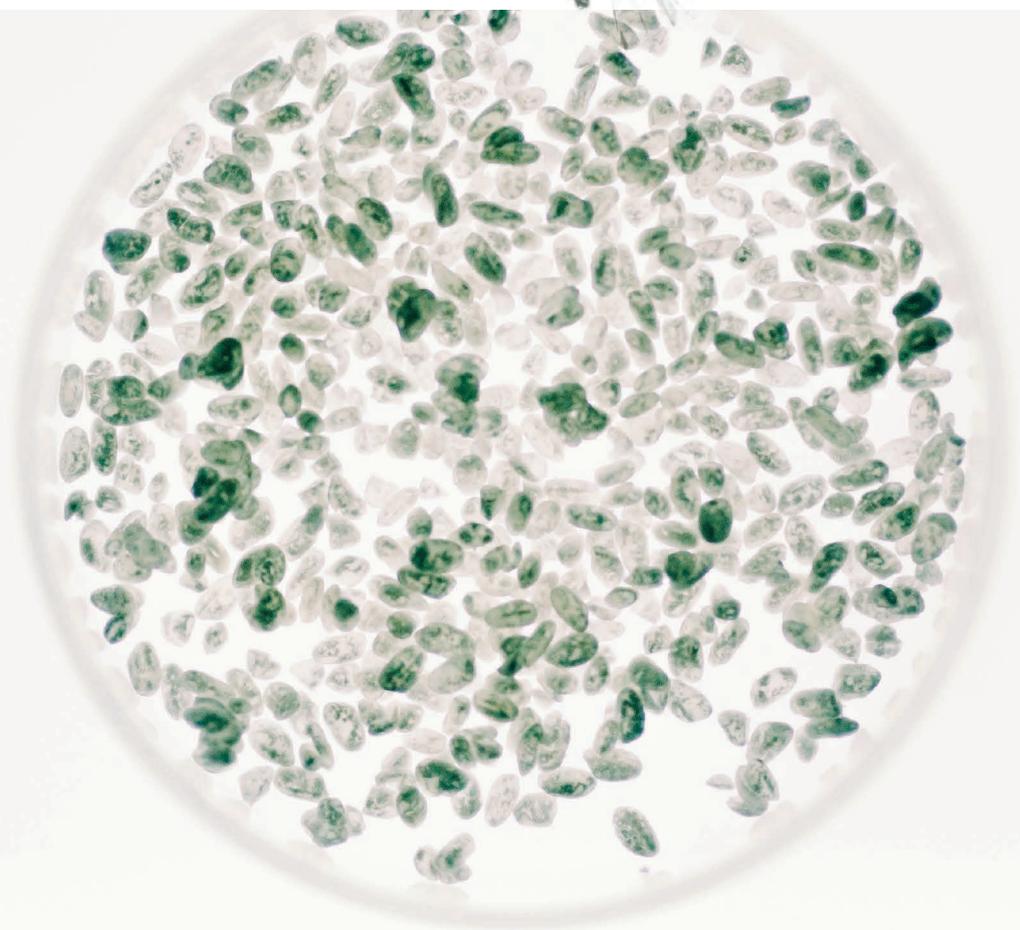
ギャラリーショップ KANAGU

職人・金属・手しごとをキーワードに、こだわりのアイテムを取り揃えています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。





アテナの道具箱
ATHENA'S TOOL BOX
vol. IX



— 酒造りの季節 —

蔵人の朝は、早い。

真冬の午前四時。夜明け前の肌を刺すような寒さと凍とした空気のなか、日本酒造りの作業がはじまった。玄米を精米し、洗い、水に浸して水分を吸わせ、甑とよばれる大きな蒸籠で蒸す。その後、麴造り、酒母造り、醗造り、上槽II搾りの工程を経て、新酒になるまでおよそ一か月半。機械化はすすんでいるが、重要な部分はすべて手作業だ。

「酒造りは自然が相手なので、気候や米の質など、毎年その条件が違う。日によって米の蒸し加減も発酵の状態も変わってくる」。機械では、その繊細で微妙な加減に対応できない。

もつとも重要なのが、蒸米に麴菌をつける麴造りの工程。「どんな麴ができたかで、酒の性格が決まってしまう。酒造りの八〇九割の部分は、麴の良しあしが占めている」。一麴、二配、三造りといわれる所以である。

シャールにとつた麴をライトパネルに置き、ルーペで菌の育ちぐあいを確認する。杜氏の道具箱の必需品だ。

— 美酒と交響曲 —

一連の作業は夕方に一区切りつく。だが、麴や酒母、醗などの状態のチェック



夢を醸す

山内 邦弘

KUNIHIRO YAMAUCHI

「都美人酒造」能登杜氏

1977年京都市生まれ。専門学校卒業後、京都大学大学院の研究室で分子生物学を学ぶ。滋賀県「近江酒造」、石川県「鹿野酒造」を経て、2007年に兵庫県南あわじ市の「都美人酒造」の杜氏に。着任した年の「全国新酒鑑評会」で金賞を受賞。昨年の「インターナショナル・ワイン・チャレンジ2018」SAKE部門でも金賞を獲得した。



はつねに欠かせない。ほとんど寝ずの番で監視、点検、調整を繰り返す。「作業の合間、こまぎれに睡眠をとる毎日が、仕込み開始の十一月から三月末まで」。ほぼ半年間は、家にも帰れず、蔵人とともに宿舎で寝起きする共同生活がつづくのだ。

杜氏とは「たとえばオーケストラの指揮者のような存在」だという。「蔵人はバイオリンやフルートやピアノなど、酒造りでそれぞれのパートの演奏者」。その蔵人を統括して目標とする酒を醸していくのが杜氏の仕事だ。

「できた酒が良くても悪くても、すべての責任は杜氏が負う」。それだけの権限と役割を担っているのだ。かくして蔵人たちが奏でる交響曲が、美酒となつて誕生する。

— 能登杜氏の道 —

みずからの進路を決めたのは、就職活動中だった。大学院で分子生物学を学んだのち、就活で酒蔵にも出かけた。そのとき出会った酒の美味しさに驚き「ここに勤めたら、美味しいお酒が毎日飲める」。即決で就職を決めた。「帰り道が楽しくかった。幸せな気持ちになるお酒だった」。以来、酒造りの研鑽の日々がつづくことになる。



杜氏としての生き方が定まったのは「山廃仕込み」の日本酒の魅力に目覚めたからだ。山廃とは日本酒のもととなる酒母造りで、天然の乳酸菌を時間と手間をかけて培養し、力強い酵母を育てる技法。「これによって、まろやかな旨みとコク、きめ細かな味わいでキレのいいお酒になる」。米の滋味を、酒の味と香りに活かす伝統的な技に惹かれたのだ。

その技を極めるため、「山廃の神様」と称される能登杜氏・農口尚彦氏のもとに弟子入りした。教えは厳しく、蔵人が三日で夜逃げしたという逸話があるほど。その師の薫陶を受け、山廃の奥義を学んだ。現在、「都美人酒造」の主力は山廃によるものだ。

— 心に響く酒 —

そもそも酒造りの技術は、すべて先人たちの知恵の積み重ねである。「でも伝統をそのまま受け継いで残せばいいか」というと、そうではない。それぞれの杜氏が時代にあつた工夫や改革を加え、次の世代に渡していくことが大切。その想いをカタチにすべく、昔ながらの木の麹室を断熱パネルの麹室に変えた。理想とする麹造りのための決断だった。

十二年前、二十九歳で「都美人酒造」

の杜氏に着任したとき、蔵元に「いつの日か銘醸蔵と呼ばれる日まで、若い杜氏と夢を追いたい」と言われた。目標とするのは「飲んで幸せを感じるお酒、心に響くお酒」。就活時代に初めて出合った、あの日の美酒のように。その夢を追いつづけ、伝統と革新の日本酒造りに挑む。



埼玉県川越市 中院 聖観音菩薩

許す能力を鍛えよう



本当にこの世はひどいことだらけ。

年々、「許せない！」と思うことが増えてきます。

でも、それはもしかすると、自分の中の

「許す能力」が衰えてきたせいかもしれません。

だから、何かにおかっていたら、5歩くらい下がって、

「みんなに許されて今ここにいる自分」について

考えてみるのはいかがでしょうか。

その時こんなポーズを取ってみると、

結局この世って、そんなにひどいことばかりじゃ

ないと思えてきますよ。

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神さま・仏さま。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、何かを語りかけてくれます。

中院 聖観音菩薩（埼玉県川越市）

蔵の街、川越には、由緒ある立派な寺社もたくさんあります。この中院も、9世紀以来の歴史を誇る名刹です。美しく整えられた境内のそこそこには、桜の木と素敵な石仏が点在。春爛漫の日にお出かけしてみませんか。

●JR埼京線・東武東上線「川越駅」より徒歩20分



文・写真 吉田さらさ

寺と神社の旅研究家。日本各地に取材し、石の神様、仏様の像の写真を撮って「お言葉」を考えるのがライフワーク。『明日がちょっと幸せになるお地蔵さまのことば』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『石仏・石の神を旅する』、『長崎の教会』（いずれもJTBパブリッシング）など、著書多数

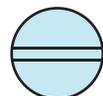
さまざまな現場でさりげなく使われているモノたちのしくみを知る

木ねじとボルト&ナット

ねじ山がある素材としては、大きく分けて釘のように先の尖った木ねじと、ボルト(雄)とナット(雌)の組み合わせで使われるタイプのふたつがあります。今では産業界の「塩」と言われるほど、あらゆる分野で必要不可欠なものになっています。



一般的なねじ頭

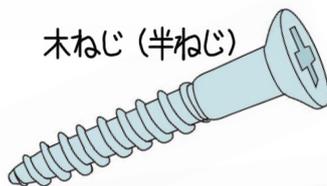


ねじ頭マイナス

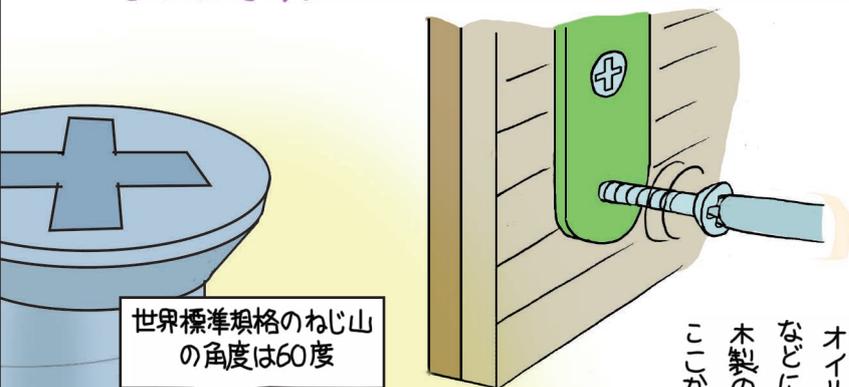
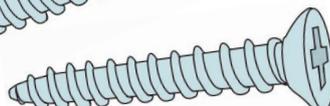


ねじ頭プラス

木ねじ(半ねじ)



タッピングねじ(全ねじ)



世界標準規格のねじ山の角度は60度

注:イラストは60度ではありません。



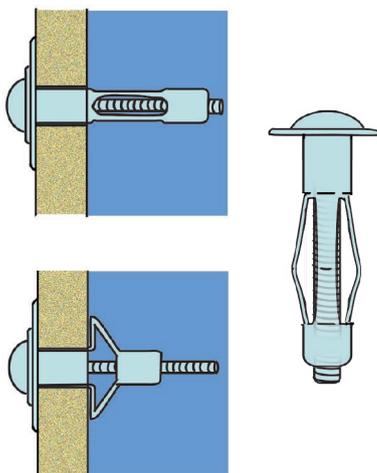
木ねじについて

木ねじは、木と木、または、他の素材を木に固定するか、繋ぎ合わせる際に利用されています。釘とは違い繋ぎ合わせたものから木ねじは抜けることはありません。また長所としてかんたんに抜き取ることができ、このねじの起源は、先人が植物のつるの巻きつき方や、貝の身を取り出すのに、ねじり出したところからヒントを得たとも言われています。歴史的な発明は、紀元前2000年代に発案されたアルキメデスの「螺旋揚水機」かもしれません。この装置は円筒の内部に螺旋状の突起物をめぐらせ、筒を回転させることにより中に入った水を上に揚げることでできる仕組みです。そのねじの原理は今現在でも多くのものに活用されています。昔は木で作られていたオリーブオイルを絞り出す圧搾機や、グーテンベルクの活版印刷機などにも使われていました。活版を紙にプレスする部分に木製のねじが使われ、現在の新聞を「プレス」と呼ぶのもここから来ているのです。

日本にねじの文化が無かった理由

かつて日本には、ねじの文化がありませんでした。その理由は、優れた木組みや、榎の手法があったのでねじを必要としなかったからです。しかし、1543年、ポルトガル人が種子島に火縄銃を持って上陸したときから、日本人は火縄銃に金属ねじが使われていることに驚き、その後その技術を習得し、間に日本中に広がっていきました。

多様化するねじ



壁の中でストッパーが開き抜けなくなるボードアンカー

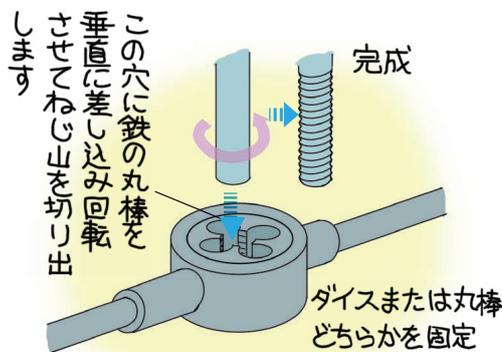
ボルトとナットについて

ボルト(雄)は円筒形のねじ山のあるもので、単独でも金属を繋ぎ合わせたりすることができますが、ナット(雌)と組み合わせることでより、強く緩みを止めやすくなるのです。

昔はボルトも、一本一本ヤスリでねじ山を削り出していましたから、とても高価なものでした。その後旋盤などを使い機械化されていき刃先には「ヤモン」を使用するようになっていきました。現在では多種多様なねじが標準とされ、大量生産されています。

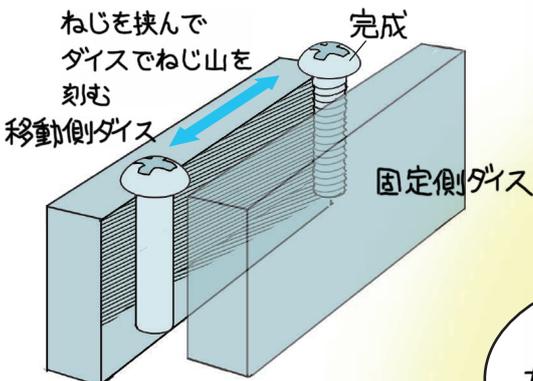
ボルトの作り方

現在使われているボルトのねじ山はISOのねじの規格で60度と世界的に決められています。かつてまだ規格が定まっていなかった時代では、ボルトの相手のナットを探し出すことがとても苦労したようです。



ねじ山を切り出す手動ダイス

大量生産できるダイスプレート



*ねじの種類によりダイスの形が違う

その昔、ねじは手づくりだったので、とても高価なものでした



気になる木のはなし 2

桧板の色つやを見ると、どこか日本的な美しさを感じます。それに加え、独特の芳香は癒やしの効果を持ち合わせているのです。桧という名称の由来には諸説ありますが、火をおこすのに使われていた「火の木」や、「日の木」つまり尊い木を意味すると言われています。いずれにしても人々の暮らしの中でとても身近な木であることは間違いないありません。この木は神社などの仏像などにも多く使われてきました。樹齢が百年以上の桧は、伐採後、千年は使い続けることができます。と伝えられています。その証拠に桧が多用された法隆寺の金堂や五重塔は千年以上の時が経っても、世界最古の木造建築物（国宝）として存在し続けているのです。

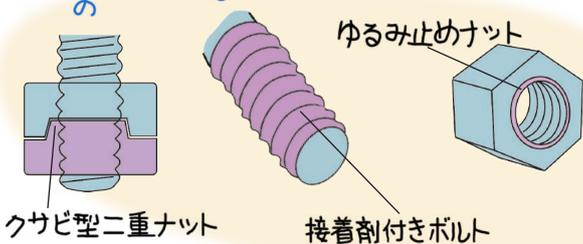
桧 (ヒノキ)

監修 石塚典男 (木香家)

2枚の板をボルトとナットで繋ぐ

抜けないねじ

ねじも使われる場所によっては、ゆるみが生じて落下する危険があります。それを防止するために考え出されたのが、ふたつのナットが絡めつけ合うクサビ型二重ナット、ゆるみ止めナット、接着剤が付いたボルトなどさまざまなものが考え出されています。

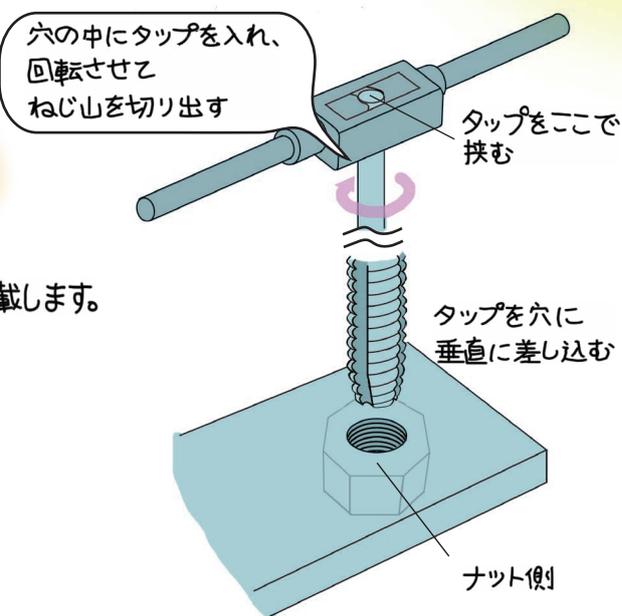


次回は、木ねじ、ボルト&ナットなどを回す道具について掲載します。



塩浦 信太郎

信太工房主宰/カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作、ほかにデパート各店での展示販売などを行っている



ナットの内側を切る道具



銅 器製造のまち・富山県高岡市にて、クラフトや建築マテリアルの製作・施工を行うモメンタムファクトリー・Orii。近年は代表・折井宏司さんが厚さ1ミリの銅・真鍮板を発色させる技術を開発、その独特な発色が注目を集めています。特に印象的な青色は「オリイブルー」とも呼ばれています。

そんなモメンタムファクトリー・Oriiによる個展「COPPER SCAPE」が、昨年12月11日から14日にかけて行われました。ブランドの個展としては、およそ5年ぶり。今回は、特に思い入れのある施工



事例や他企業・ブランドとのコラボレーションアイテムを中心に展示されました。ギターのピックガードや、バッグの装飾アクセサリー…。これまで銅が用いられてこなかった部分にも自然に溶け込み、かつその存在感を發揮しています。



折井宏司 モメンタムファクトリー・Orii代表。銅・真鍮板を発色させる技術を開発し、オリジナルクラフト作品を製作。

会場内には、折井さんが今回の個展のために製作した大きなアート作品も展示。テーマは、ホタルイカがきらめく真っ黒な富山湾や山々の新緑、夕陽が落ちていく日本海、雪が積もった北アルプスなど。「富山の自然・四季」をテーマにした作品群ですが、なかには作品に自分の故郷の自然を重ねて見る人もあったのだとか。これについて、折井さんは「見方は自由だ」と語っています。唯一無二の輝きを持ちながら、誰の心にも寄り添う。奥深く美しい、銅の世界が広がっていました。

個展「COPPER SCAPE.」と「木香家展」を行いました



東 京都板橋区、木工のオーダーメイド家具等を製作する木香家。オーブン15周年を記念し、昨年12月18日から23日にかけて「木香家展」が行われました。銘木の家具を中心とした作品が静かに並び、会場はどこか荘厳な空気に包まれていました。入り口付近に展示されていた木香家設立趣意の一文には「『伝統文化』と『近代文明』の調和を図る努力」「共感、共有、調和」という文言が。その言葉通り、「伝統的な技術で製作された家具たちはクラシックでありながら、現代の暮らしにもじっくりと馴染みそうなものばかりです。

代表の石塚典男さんは、丹精込めて作り上げた家具を引き渡す瞬間は娘を嫁に出すような感覚になるのだそう。その一方で「その人に嫁入りするということは、



石塚典男 木香家(もっこうや)代表。天然木一枚板、銘木、無垢材を用いたオリジナル、オーダーメイド家具を製作。

この家具は最初からその人のためであったということ「オーダー家具はお客様との合作」とも語っています。実際に、展示中に嫁入り先が決まった作品もあったそうです。

そんななかひととき異彩を放っていたのが、会場奥に飾られた書道作品のような一品。人間国宝にも認定された染色工芸家・芹沢銈介氏の下絵を基に製作されたオブジェで、「安」という一文字が記されています。これは石塚さんが芹沢氏とお母様へ感謝の想いから生まれた品。一枚板に彫りと染めで文様を形成しており、作品が飾られた一角からはどこか神棚のような趣が。自然と共存しながら生きてきた、日本の古き良き文化が感じられる展示会となりました。



アトムCSタワー

東京都港区新橋 4-31-5 TEL.03(3437)7750

Open 月—金 10時—18時
Close 土・日・祝日(土曜営業日はHPをチェック)

JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩8分
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩8分

photo by 吉田周平 文 島仲こすも

甘く、ほろ苦い風味が特徴。 春らしさ満点、紅菜苔。

鮮やかな紫が食卓に映える、
菜花の一種、紅菜苔。
歯ごたえのある茎をいただく野菜ですが
蕾もおいしく食べられます。

紅菜苔の特徴はずばり、その味わい。
口に広がるまろやかな甘みに、
その後鼻に抜けていく爽やかな香り。
菜花らしい、ほろ苦さも相まって、
どこか「出汁」のようにも感じられる
風味が広がっていきます。

そんな紅菜苔、おすすめの食べ方は
もちろん、生食。
アンチョビとオリーブオイルで
サラダがいちばん。
もしくは白身魚とカルパッチョも
いいですね。
複雑に絡み合う香りと味、
彩りも楽しい。
新しいことが始まる季節に
ぴったりの野菜です。



クリタタカシ 野菜農家「キレド」代表。サラリーマン時代に出会った「梨の
ような大根」に感銘を受け、農業の道に。現在は千葉県四街道市にて、年間
150種類以上の野菜を栽培している。「野菜の一生をみる」「レストランでしか
食べられないような野菜を、食卓にも」を基本理念として活動中。同県千葉市
には、とれたて野菜を味わうことのできる「キレドベジタブルアトリエ」も。

キレドベジタブルアトリエ
千葉県千葉市若葉区小倉台5-13-4-1F
www.kiredo.com



宇都宮市は大谷石の街である。市西部の大谷町一帯で採掘される大谷石は、古くから外壁や蔵などの建材として利用されてきた。

一九三二（昭和七）年に竣工したカトリック松が峰教会の聖堂は、現存する大谷石仕上げの建築では日本最大のもの。一九九八（平成十）年、国の「登録有形文化財」に登録され、二〇〇二（平成十四）年には、宇都宮市「まちなみ景観大賞」を受賞した。

独特の風合いをもつ建物

八角のトンガリ屋根をいただく双塔が、青空にくっきりと聳えていた。建物がある一郭は、中世のヨーロッパの街に迷いこんだような不思議な雰囲気をもたえている。

カトリック松が峰教会の聖堂は、函館にある「トラピスチヌ修道院」や、東京の「上智大学1号館」などを手がけたスイス人建築家マックス・ヒンデルの設計による。大谷石仕上げのネオロマネスク様式で、特徴としては出入口のアーチや窓の上の半円アーチ、壁面の帯状の層など。本来のロマネスク様式と比べると、アーチや窓の装飾は単純化され、シンボ

ライズされている。

建物でひととき目をひくのは、宇都宮市特産の大谷石の重厚な外観である。石の建造物は、どちらかといえば冷たく硬質なイメージが先行するが、大谷石は近寄ってみると思いがけない柔らかさを感じる。石の表面に点在する「ミノ」とよばれる斑点は、火山灰に紛れこんだ木の破片や葉などの不純物。その風合いが、独特の柔らかさや温かさを生みだしているのだ。

噴火による軽石凝灰岩

大谷石は火山の噴火による火山灰や砂礫が海水中に沈殿し凝固してできた軽石



竣工した当時の聖堂。両サイドから聖堂にアプローチする正面階段と、天に向かって聳える2つの塔が荘重な雰囲気を醸しだしている

栃木県宇都宮市・カトリック松が峰教会

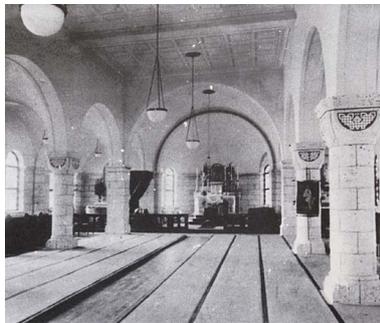
取材・文 倉田ひさし 撮影 大垣善昭

日本最大の
大谷石仕上げの教会建築





柔らかさや温もりを感じる手触りの大谷石



竣工当時の聖堂は畳敷きでミサを行った



長靴をはいた蛙の彫刻は雨樋に使われている

凝灰岩。軽く加工しやすく、かつ耐火性や蓄熱性に優れているため、古くから京都宮市周辺では住宅の石塀、門柱、敷石をはじめ、蔵や倉庫、石垣などに利用されてきた。

東京「築地本願寺」や、フランク・ロイド・ライト設計の「帝国ホテル旧本館」の建材として使われたことでも知られる。その同じ採石場から切り出された大谷石が、聖堂の内外壁に用いられている。

聖堂建築に大谷石を採用した理由については資料が残されていない。だが、当時は日中戦争がはじまる数年前で米英などとの緊張が高まっている時代。外国からきたキリスト教や、フランス人神父、スイス人の設計者という違和感をやわらげ、地元特産の大谷石を使うことで地域の人たちに親近感を持つてもらいたいという想いがあったのだろう。

大谷石をきっかけに会話が生まれ、少

しでも交流が広がっていくよう役立てた。そんな狙いもあったという。

宮澤賢治ゆかりの彫刻

ほぼ一年をかけた建設にたずさわった作業員は、のべ三万六千人。竣工したとき、聖堂は日本の風習にしたがい畳敷きであった。

聖堂の正面から横手にまわってみる。

見上げると、長靴をはいた蛙の石像が目に見えびこんできた。「カン蛙（かんがえる）」と名づけられた大谷石の彫刻で、雨樋の機能を持っている。

この彫刻は教会の第三代主任司祭だったアルマン・ブジェ神父と深い親交のあった作家・宮澤賢治にちなんだもの。賢治の童話『蛙のゴム靴』という作品からヒントを得て制作された。カン蛙とブン蛙、ベン蛙という三匹の蛙のユーモラスな物語だ。

「この蛙の彫刻を通して、流れる雨水の滝が、大勢の人の喜びとなり、教会聖堂の新しいしるしとシンボルとなりますように」との願いもこめられている。

光と音があふれる聖堂

聖堂に足を踏みいれると、淡いオレンジ

アトムの視点



聖堂入口のアーチ部分や聖堂内にある大谷石の円柱をはじめ、聖母マリアとイコンが置かれている台など、至るところに石工職人による細かな装飾が施されていて、見どころのひとつとなっています。聖堂内の円柱に彫刻された「細紐模様」は、古から伝わるキリスト教の教えをデザイン化した伝統模様。神父さまのお話によると「人と人との絆」を表現しているとか。また魔除けやお守りとしてのパワーがあるともいわれ、文様に始めも終わりもないことから、時間を超越した「永遠」や、流転する万物のサイクルをも表しているということです。



祭壇の奥にはドイツ製のバロック様式のパイプオルガン。毎週日曜日のミサのときに讃美歌の伴奏として奏でられ、大谷石の音響効果で美しい音色が聖堂にみちあふれる

ジ色の光につつまれる。ふいに、まわりの空気が聖なるものに変化したような感じがした。

祭壇の奥には、教会にふさわしい優美なパイプオルガンが設置されている。北関東では最初の本格的なパイプオルガンで、ドイツのアルビーツ社がこの聖堂に合わせて設計、製作したバロック様式のもの。パイプは全部で一二四本あり、二十一種の音色を奏でることができる。

毎週日曜日のミサをはじめ、クリスマスや結婚式などで演奏される。ミサでは「祈り」と同じように讃美歌が重要な要素のひとつ。オルガン演奏で歌のリズムやハーモニーを合わせ、集まった人々の心をひとつにして絆を深めるのだ。

大谷石は、その歌声や演奏の音をほどよく吸収し、美しく響かせる音響効果をもたらす。近年では、音楽ホールへの利用も広がっているという。

荘厳な光と音があふれる聖堂は、大谷石の美と調和が生み出した奇跡の建築なのかもしれない。カトリック松が峰教会は、信仰と祈りの場だけではなく、宇都宮市にとつてかけがえのないランドマークでもある。

聖堂の大谷石の円柱にそっと触れると、かすかな温もりが伝わってきた。

INFORMATION

カトリック松が峰教会

- 所在地：栃木県宇都宮市松が峰1-1-5
- TEL. 028-635-0405
- 公開：8:30～20:00 無休
- 交通：東武鉄道宇都宮線「東武宇都宮」駅から徒歩5分
またはJR宇都宮駅から市内循環バス「きぶな」14分
「松が峰教会前」下車、徒歩2分
- ホームページ：<http://www2.ucatv.ne.jp/~matumine.sea/>



窓から射しこむ淡いオレンジ色の光が、聖堂の2階席を優しく清らかにつつまこんでいる

Q 1 アトムブランド誕生のきっかけとは？

A それは1954(昭和29)年から、陳列金物の棚受類をはじめとする当社商品に「アトム」の名を冠して販売したのが始まりでした。もともと和家具の金物には、昔から名前だけで形がすぐイメージできる伝統的な文様の名前がそのまま商品名になっていました。ところが取り扱う金物の幅が広がるにつれて、当社商品を総称する呼び名のない不便さが生まれてきました。そこで新たな試みとして、「アトムブランド」を誕生させたわけです。ちなみに「アトム1号棚受」が、アトムブランドの第1号となりました。

Q 2 アトムという名称を選んだ理由はなんですか？

A 皆さんからよく質問されるのですが、かつて古代ギリシャの哲学者たちは「アトム」とは、「分割不可能な存在」であり、「事物を構成する最小の単位」と考えていたそうです。私どもは「アトム」の名称に、ものづくりの原点として「微細なものをないがしろにしない」という意味合いや、創業者から伝えられている「基本に忠実であれ」という想いをこめています。ブランド誕生を機に、商標としての「アトムマーク」も制定し、さらに1987(昭和62)年には新たな商標に更新して再スタートしました。

What is ATOM?

2019年1月、アトムブランドは誕生65周年を迎えました。そこで今回は、アトムブランド誕生のきっかけやネーミングの由来について、高橋良一社長にお伺いしました。

65th
アトムブランド
誕生

アトムリビンテック株式会社
代表取締役社長 高橋良一

1949年生まれ。1969年入社。集配センター、研究室、営業管理部、販売部等を経て、1980年、代表取締役副社長。1984年、代表取締役社長。



Q 3 ブランド名が社名にもなった経緯をお聞かせください。

A おかげさまで、アトムブランド商品のヒットによって、しだいに「アトム」の呼称が金物業界のなかで広く知られるようになりました。そんななか、21世紀にふさわしいビジネス展開をという動きが起こり、住まいの技術を意味する「Living Tech」と、技術を生きる「Live in Tech」とを融合させ、その理念を大切にす企業でありつづけたいと社名を変更するに至ったのです。「高橋金物株式会社」から「アトムリビンテック株式会社」へ、新しい一歩を踏み出したのです。

Q 4 これまでのアトムの歴史や、今後の経営プランなどを知りたいのですが？

A じつは2015(平成27)年の「秋の内覧会」から、CSタワー内に「IRコーナー」をオープンしています。こちらでは「コーポレートストーリー」や「第10次中期経営計画」などの資料をご自由にお持ち帰りいただけます。CSタワーご来場の際に、ぜひお立ち寄りください。これからも当社は、内装金物(住まいの金物)の総合メーカーとして、時代のニーズや変化に対応した、次世代を担う商品の企画・開発に取り組んでまいります。

アトムリビンテック株式会社 会社概要

- 創業 1903年(明治36年)
- 設立 1954年(昭和29年)
- 代表者 代表取締役社長 高橋良一
- 資本金 3億74万円(平成30年6月期末)
- 従業員数 124名(平成30年6月30日現在)
- 本社所在地 東京都台東区入谷1-27-4
- 年商 104億8,300万円(平成30年6月期)
- 事業内容 内装金物(住まいの金物)全般の企画・開発・販売



当社の業績概況や事業戦略にスムーズにアクセス! アトムリビンテックの「株主・投資家情報」サイトをぜひご利用ください。

www.atomlt.com/ir



「株主優待制度」とは？

株主優待制度とは、一定以上の株数を保有している株主さまに対して、配当金以外の商品やサービスを贈呈する制度のこと。欧米に比べて日本での注目度は高く、上場企業のうち1,300社以上が実施し、新設する企業も年々増加する傾向にあります。

当社においても、株主の皆さまの日頃のご支援に感謝し、事業へのご理解をさらに深めていただきたいという願いのもと、去る2月8日開催の取締役会において「株主優待制度」の導入を決議し、実施することになりました。これを機に当社株式への投資魅力を高めるとともに、中長期的に株式を保有していただくことを目的としています。

株主優待は「QUOカード」と「当社関連商品の特別割引」の2本立て。QUOカードは、毎年6月末日の当社株主名簿に記載、または記録された100株（1単元）以上かつ1年以上継続して保有する株主さま、または300株（3単元）以上を保有する株主さま。特別割引の対象は、同じく毎年6月末日の当社株主名簿に記載または記録された100株（1単元）以上を保有する株主さまです。

詳しくは当社ホームページ（下記アドレス）をご参照ください。

▶ www.atomlt.com/ir/stockholders/shareholders/

INFORMATION

アトムリビンテック「2019春の新作発表会」のご案内

大阪会場

4/
11(木) 12(金) 13(土)

アトム住まいの金物ギャラリー大阪

tel.06(6821)7281 大阪府吹田市広芝町18-5
10:00～18:00 *最終日は17:00まで



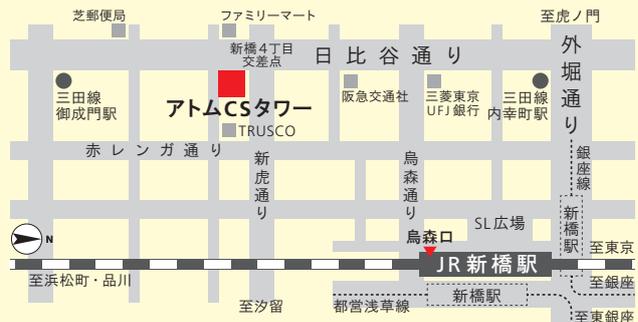
御堂筋線・南北線「江坂駅」南改札より徒歩8分

東京会場

4/
18(木) 19(金) 20(土)

アトムCSタワー

tel.03(3437)3440 東京都港区新橋4-31-5
10:00～18:00 *最終日は17:00まで



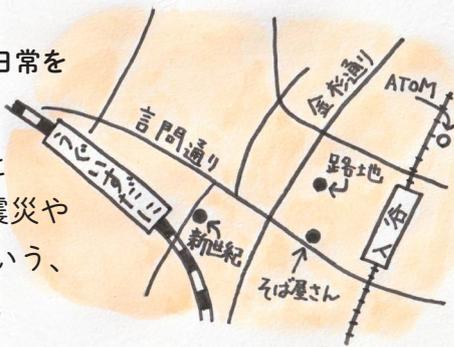
JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩8分
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩8分

ご来場ご希望の方は、アトムリビンテックホームページより招待状をプリントアウトしてお持ちください。

www.atomlt.com

関西出身の旅スケッチ画家が
気ままに歩いてみつけた東京下町の日常を
その場でスケッチしていきます。

今回歩いたのは、台東区の根岸と
鶯谷近辺。この界隈は、関東大震災や
東京大空襲でも焼けなかったという、
昔の家や街並みが残っています。



根岸・鶯谷編

鶯谷駅の近く、名前とい
いデザインといい、ああ昭
和！ちよくちよく掲示板
を見にくるおじさんたち
常連客だらうか。



鶯谷駅前ダンスホール

大通りを入ってすぐなのに
別世界。植木の緑が、いっぱ
い目に飛び込んできて昭和
のオアシスって感じ。とり
わけ変わっているわけでは
ない。なんかこう本当に生
活している感じがすごくする。
スケッチ中、洗たく物を
取り込んだり花に水をやっ
たり小さな変化がある。近
所のおばちゃんたちが興味深
げにやってきて、いっしょに
おしゃべりするの楽しい。
以前はもっと緑が多かった
そう。写真も見せてくれた。
話に夢中になってし
まってるっかり荷物を遠く
に置きっぱ放しだった。

昔からやってるうな
そは屋さん。作務衣
姿の店主が出てきた
んでスケッチ見せた
ら「カレー南蛮が、
うまいんだよ。ご馳走
するまーい」って。
うわめ江戸っ子って
感じ！嬉しくなっ
てホントにご馳走な
ちよつたよ！いや、
あったまーった！



旅スケッチ画家 ごとうゆき
1967年生まれ
兵庫県明石市出身、練馬区在住
安宿に泊まって日本のあちこちを
歩きまわり、日常生活の風景を
描くことが大好き

読者の声

博物館とまた違って、その人の生活感・ぬくもりがジワ〜ッと伝わる「駒井家住宅」のページでした。京都を訪ねた折には行ってみたいと思います。
(東京都 W・M様 女性)

わが家には父が愛用した大工箱があります。金槌、ペンチ、ニッパ、釘、かななど…。「釘と金槌」を読んで、今は使われなくなった昭和の大工道具に「ご苦労さま」と声をかけたくくなりました。
(大阪府 K・M様 男性)

私も手紙は書かなくなりましたが、はがきはこまめに書いています。だから、郵便はがき、絵はがき、記念切手は、いつも何種類か用意しています。いつの頃からか、シール切手が多くなり、なるべくギザギザのついた切手を使うようにしています。はがきが届いているとうれしいので。今号のフランスの切手、流石、芸術の国の切手、と思っています。
(神奈川県 F・S様 男性)

リフォームの間仕切りについて「3連引戸ダブルオープン」はとても参考になりました。一般ではこのような情報が得にくく、プランの1つとして考えてみようと思います。
(神奈川県 I・E様 女性)

自分の技術が明らかに古くなりつつある時、先人の残した優れた情熱のカタマリのような作品を見ると本当に力を与えてくれる。1927年洋風建築の嵐にさらされた職人達の迷いは今の比ではないだろう。そんな時、この玄関脇の幅木に込められた愛らしいドロワー、ホッとしますね。
(東京都 オーシャン様 男性)

アテナの道具箱、毎回頑張っている職人さんの紹介がとても楽しみで応援したくなります。伝統の技を引き継ぎ、改革していく人たちにスポットを当てた取材をよろしくお願いします。
(静岡県 mami様 女性)

ひとつとして同じものはない、ものって素敵ですね。
(埼玉県 はな様 女性)

編集後記

今号よりスタートした「ごとうゆきのトーキョー下町探検」で、ごとうゆきさんと下町探検をご一緒させていただきました。本社のある入谷をスタートし、気ままにあちらこちら歩くのは楽しいもので、「この路地を抜けるとここに出るんだ」「こんなところにいる感じの喫茶店がある」など新たな発見があり、アトムに入社して随分と経ちますが、意外と入谷近辺のことをあまり知らないなと改めて感じました。
(下町探検隊2号)

INFORMATION

動画で解決!

アトム製品のご紹介や使い方ガイドなどを
動画でご覧いただけます

アトムリビンテックHP「atom動画ぎやらりー」から
ご覧いただけます。

www.atomlt.com/atom_tv



特販事業部 桜井 ゆかり

特需部門の営業事務として
商品の受発注業務を担当

入社して13年目。
これまで「何か時間を忘れるほど、没頭できる趣味を見つけないなあ」とずっと思い続けていたけれども、実際には…。
「旅行に行きたいなあ」「映画観に行きたいなあ」「体動かしたいなあ」「新しいこと始めてみたいなあ」など、色々やってみたいと思うことはたくさんあっても、なかなか重い腰をあげることができず、ここまでずっと無趣味。
その中でも趣味とはほど遠いけど、気の合う学生時代からの友達や、会社の仲間と一緒に、おいしい料理やお酒とともに交わす他愛のない会話が、私にとって日頃の疲れをリセットしてくれる大切な時間です。
そこで今回は、10年以上の付き合いになったアトムリビンテックの女子4名の通称【中年の会】

の様子を少し紹介したいと思います。
業務終了後、会社の近くの入谷のお店か、上野辺りで開催しています。お店を予約することもありませんが、嬉しいことに比較的早い時間帯にお店へ行ける時もあり、人気のあるお店も予約なしで入れることもあります。先日は、「肉を食べに行こうー!」と上野にある肉バルへ行ってきました。それぞれ飲み物とローストビーフやステーキなど肉料理をテールブルっぽいに並べて乾杯です。
気心の知れた仲間との食事はとても楽しく、色々なトークで盛り上がり、1軒目では物足りず次のお店へ。そこでもあつという間に時間が過ぎ、終電間際になって慌てて帰宅。
これがいつものパターンとなっています。
毎回こんな感じでリフレッシュしながら仕事を頑張っています。



残念ながら今回は1人欠席でした

個人情報の取り扱いについて

読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、プレゼント発送のほか、商品情報や弊社個展の招待状等の発送に利用させていただく場合がございます。これらの発送停止をご希望される場合には、速やかに対応いたします。詳しくは弊社HPのプライバシーポリシーをご覧ください。



住まいの金物、取りそろえました。



www.atomlt.com/catalog/

住まいの飾り職人

ATOM LIVINGTECH アトムリビングテック株式会社

■本社 / 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600 (代表)

特販事業部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833

卸売事業部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435

■アトムCSタワー / 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5

アーバンスタイル事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-3565

亜吐夢金物館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

■アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 / 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282

■札幌営業所 / 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015

■前橋営業所 / 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661

■広島営業所 / 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880



www.atomlt.com